

## 福山市生涯学習活動費補助金交付団体の活動を紹介します

福山市生涯学習振興基金運営協議会を2019年（令和元年）7月5日（金曜日）に開催し、7団体に交付決定しました。

そこで、各団体を視察しました内容を紹介します。

### （１）「トイロニジ～ダウン症の子どもと家族の会～」の取組について

日時：2019年（令和元年）9月23日（月曜日）

会場：福山市人権交流センター

内容：学習会「食べる機能の発達とその支援」



トイロニジ～ダウン症の子どもと家族の会～は、福山市・尾道市などを中心に活動しているダウン症の子どもをもつ家族のサークルです。身体のこと、家族のこと、将来のことなど、少しでも不安をとりぞくことや解決のヒントを見つけることを目的に月1回程度、懇親会や学習会など開催しています。

この日は、メンバーから嚥下について知りたいとの要望があったことから、「食べる機能の発達とその支援」をテーマに、歯科医師を招いて学習会を開催しました。講演は、食べる機能についてダウン症児によくみられる傾向や発達段階ごとのポイントを、参加者がイメージしやすい言葉と画像、動画を用いて話をされました。また、講演の中で、講師から「ごはんは楽しい時間です。訓練が目的になってしまい、食事が楽しくならないようにしてください。」と話がありました。

講演後、希望者に個別の嚥下指導の場を設けて、講師が実際に子どもの食べる様子を見て、今後の食事の支援の方法など助言していました。参加者は子どもたちがより豊かな食生活が送れるようにと熱心に講演を聞いていました。

代表の原さんは、「これからも、メンバーが知りたいことや、不安に思っていることを共有し、少しでも解決のヒントになるような活動を続けていきたい。」と話されました。

## (2)「インターナショナル・チーム」の取組について

日時：2019年（令和元年）11月16日（土曜日）

会場：RiM-f（リム・ふくやま）地下2階

内容：日本語教室



インターナショナル・チームは、毎月第1・第3土曜日に日本語教室を開催しています。受講者の多くは、外国にルーツを持つ市民で、出身国もさまざまです。

活動の中心となるメンバーが、生活していく中で知り合った人に声を掛け、受講者を募っていきます。各回20人程度が受講されますが、毎回、新しい受講者が来られるのも、この日本語教室の特徴となっています。

定例の学習日となるこの日は、受講者の要望に応える形で、少人数のグループで、学びたい日本語のスキルに応じて「日常会話」や「読み書き」などを学習されていました。

子育て中の受講者から、文化の違いから生じる日常生活の中での悩みや疑問に思うことなども話題にされ、グループ内で話し合われる場面も見られました。

代表の金さんは、「日本語の上達も大切ですが、受講者が参加することによって少しでもストレスを発散できる機会になればいい。」と話されていました。

### (3)「早蕨（さわらび）」の取組について

日時：2019年（令和元年）11月18日（月曜日）

会場：西部市民センター

内容：「おとなのための朗読会」（松永図書館との共同開催）



早蕨（さわらび）はおとなを対象に朗読の素晴らしさを広めることを目的に、2017年3月に結成し、現在7人の会員と2人の準会員で活動をおこなっています。年2回開催を目標にしている朗読会に向け、毎月2回程度の練習をおこなっています。1回は講師から指導を受け、もう1回は自主練習をおこなっています。

この日は、松永図書館と共同で「おとなのための朗読会」を開催しました。朗読会では、中原中也、井伏鱒二の詩や、童話、高田郁のふるさと銀河線より「返信」など文学的な小説を中心に朗読されていました。この早蕨の朗読会には、福山の地域を取り上げたもの、福山出身の作者やゆかりのある人の作品を必ず入れることにしているそうです。今回は、伊集院静の作品から、松永の下駄を取り上げたエッセイを選びました。会場全体を秋の装いで飾り、作者などに関する展示も雰囲気盛り上げていました。また、図書館は朗読会で使った本を展示し興味を持った方に借りてもらえるように工夫し相乗効果を得ていました。

男性会員の方は、「朗読をしている男性は少ない。自分も男性の声で小説を聞いてみたい。男性ももっと増えて欲しい。この会に入り小説を読むことで、いろいろなことを知り、いろいろな人と出会い交流できた。」と話されました。

会の代表、田島さんは「男性の声を聞いてもらいたいと思ったこともこの会を立ち上げた目的の一つ。メンバーはそれぞれの特技を生かし、朗読以外にも、パソコンで脚本を作ったり、マイクなどの音響を操作したり、豊富な知識を教えあったりしている。みんなの力でこの会は成り立っている。自分たちの朗読で、感動を与え、作品に興味を持ってもらいたい。これからもじっくり作品を読み込み、時代背景を考えながら、正しいイントネーションで朗読することに気を付けていきたい。」と話されていました。

この日の朗読会の参加者は90人。帰り際、皆さん感動されていました。

#### (4)「深津ハーモニカサークル」の取組について

日時：2019年（令和元年）11月18日（月曜日）

会場：深津コミュニティセンター

内容：ハーモニカの練習



深津ハーモニカサークルは、老人大学でハーモニカを学び、卒業後も学習活動を継続したいメンバーで、約8年前にサークルを結成。現在のメンバーは、70から80歳代の12人です。活動としては、月1回の日本ハーモニカ芸術協会認定の師範が指導される練習と月2回の自主練習を行い、年間10回程度、福祉施設等で訪問演奏をされています。福祉施設等の訪問先では入所者が曲にあわせて一緒に歌われるなど大変喜ばれているそうです。

この日は、8人のメンバーが先生の指導のもと、童謡曲をアンサンブルで演奏する練習をされていました。レパートリーは、童謡、演歌、バラード、映画音楽など数多く、曲によって、ハーモニカの種類を変えて吹かれるということで、1人が約10本のハーモニカを持たれ、使い分けているそうです。

代表の藤田さんは「ハーモニカの種類が多く、曲に合った調音や奏法の練習は難しいが、施設等で吹くと皆と一緒に歌って楽しんでもくれることが嬉しい。」と話されていました。

## (5)「そばの華」の取組について

日時：2019年（令和元年）11月19日（火曜日）

会場：中条公民館ほか

内容：地域の独居高齢者へ配布するためのそば作り



「そばの華」はそば作りを通じて、そば作りの伝承や人とのふれ合い、生きがい作りを目的として活動しています。活動は月に1回の定例会、地域交流会、イベント等に参加しています。そのうち12月に行っている地域の独居高齢者へ配布するためのそば作りは、中条学区まちづくり推進委員会（福祉部会）と共同で実施し、配布も民生委員や小学校児童の協力のもと行っています。

また「そばの華」では、そばを打つだけでなく「そば」の栽培から行っており、収穫、脱穀等も自分たちで行っているそうです。

この日も指導者の個人にあわせた声掛けのもと、「汗が出るわ」「角がうまく出んよ」など言いながら、そば粉を捏ね魔法でもかけているかのように薄く長方形にのばし、切ったあとにゆがいてという作業をテキパキとこなされていました。そして皆さんで楽しく試食をした後は、公民館から移動して収穫後干していたそばの実の脱穀作業にうつりました。「足が疲れるわ」「ん？うまいかんが？」と、皆さんで連携しながら作業されていました。

当初12～3人でスタートした「そばの華」も、現在では中条学区だけではなく、ほかの学区からのメンバーも増え20人近くいるそうで、今後も地域内外の活動に取り組んで行くとのことでした。

参加者の方は「サークル内での活動だけでなく、地域に出向いてそばを振舞うことで、美味しいといった声や、笑顔を見ることができて嬉しい。」「定期的にメンバーと顔を合わせることでコミュニケーションができる。」と話されていました。

## (6)「木版画ローラーの会」の取組について

日時：2019年（令和元年）11月30日（土曜日）

会場：伊勢丘公民館

内容：ふくやま東部フェスタ出展に向けた版画製作



木版画ローラーの会は、2017年度から活動をスタートさせて、月に2回活動しています。ローラー版画とは、色ごとに版木を作成し、1枚の紙に重ね合わせることで、多色の版画作品が完成する版画の技法のひとつです。

完成までには多くの工程があり、原画を決めて、下絵描き、版画の作成、版木へ転写、彫り、色刷りをして完成となるため、大作となると半年にも及ぶそうです。

この日は、年賀状作りや2020年3月に開催されるふくやま東部フェスタへの作品出展に向けて、題材をスケッチしたり、版木を彫ったりしていました。メンバー同士で意見交換やアドバイスをしあいながら、和気あいあいとした雰囲気で行われていました。

展示会の一般の部に出展した4人の方は、入選し、東京都美術館で展示をされました。

代表の山藤さんは、「年1回、日本版画会展に出展しているが、それだけではなく、趣味の1つとして、版画があることを地域の皆さんに知っていただきたい。また、版画に親しんでもらうために地域の展示会にも積極的に出展していきます。」と話されました。

## (7)「板友会」の取組について

日時：2019年（令和元年）12月14日（土）

会場：ふくやま美術館（工芸・版画室）

内容：版画制作のための勉強会，情報交換



板友会は、ふくやま美術館で行われた版画講習会の受講生が中心となって始まったグループで、版画芸術の普及だけでなく、芸術を通じた創作活動により生きがいや仲間づくりを目的に、月に二回程度（土曜日）活動をしています。また、会員には10年以上の経験者が多数いらっしゃいます。

この日は16人の参加があり、各々来年の干支である「ねずみ」の版画で制作した年賀状を持ち寄って、工夫した点や彫り方を説明し参加者同士で批評を行います。どれも温かみのある作品でこうした版画を制作するためには消しゴムや綿棒を使って表現するなど、緻密な技術が施されているそうです。

作品を囲んで自然にいくつものグループが出来上がり、情報交換が行われていました。

後半は作品の下絵をもとに会員同士で勉強会を行い、「どうしてもっと良くなると思う？」「この絵のどこがNGポイントだと思う？」など作品の意図や構図、バックボーンについて解説し、時には忌憚のない厳しい意見もありますが、作品に対する妥協のない真剣な表情が印象的でした。

制作には半年以上かかるものもあり作品は展示会に出品されるほか、病院のロビーや美術館等に展示するなど、版画芸術を多くの方々に広めておられます。

「忙しい日常生活の中で、無心になれる時間があるのはとても有意義なんです。」と参加者の方が話されていました。